

御宿町地域公共交通計画の策定にあたっての考え方

目的

御宿町では、鉄道（JR 外房線）、高速バス、路線バス、一般タクシー及び乗合運行エビアミー号が公共交通として運行されているが、高齢化の進展や運転免許証返納者の増加等に伴う公共交通に係るニーズに十分に対応できていない状況にある。

そこで、今後も進展する人口減少や高齢化を見据えた交通需要を的確に把握し、利用者の利便性向上により町内の公共交通体系を維持するとともに、各公共交通機関の連携体制を確立させ、持続可能な交通網の形成を目的として御宿町地域公共交通計画を策定する。

地域公共交通計画の現状と課題

<御宿町の現状>

御宿町は、令和5年の総人口は6,673人となっており、高齢化率は国・千葉県と比較しても高く50%を超えている。また、御宿駅を核とした中心市街地と、里海エリアである海岸沿いにかけて人口が集中し、北西部の里山エリアでは比較的人口が少なく過疎化が進んでいる。

通勤・通学流動は流出・流入ともに隣接するいすみ市と勝浦市の割合が高く、日常生活の利便施設は、まちなかエリアと里海エリアに機能が集積し、里山エリアは集客機能が低い状況である。

<地域公共交通の現状>

鉄道及び高速バスの利用者は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあったが、現在はゆるやかな回復傾向にある。また、路線バスは利用者数が戻らず、交通事業者の経営を圧迫している。

エビアミー号は利用者及び運賃収入は増加傾向にある一方、乗合率の向上が課題となっている。また、運行経費に係る財政負担は増加傾向にあり、利用促進が求められる。

計画の概要及び基本方針

御宿町ではこれらの課題に対応するため、本計画の基本理念と基本方針を以下のとおり設定する。

●基本理念

ひと・マチ・自然をつなぎ まちを支える地域公共交通網の実現

●基本方針

- ① 近隣市町との連携による日常生活を支える交通体系の構築
- ② 交通環境の整備による誰もが利用しやすい交通体系の構築
- ③ まちが一体となり支える持続可能な交通体系の構築

●公共交通の機能分担

本町の公共交通ネットワークの方向性を4段階（広域交通・地域間交通・地域内交通・補完交通）に機能分担を図り、公共交通機関の相互連携により、住民の生活交通や観光客の目的地までの交通手段としても機能させることで、利便性の向上と効率的な運行を目指す。